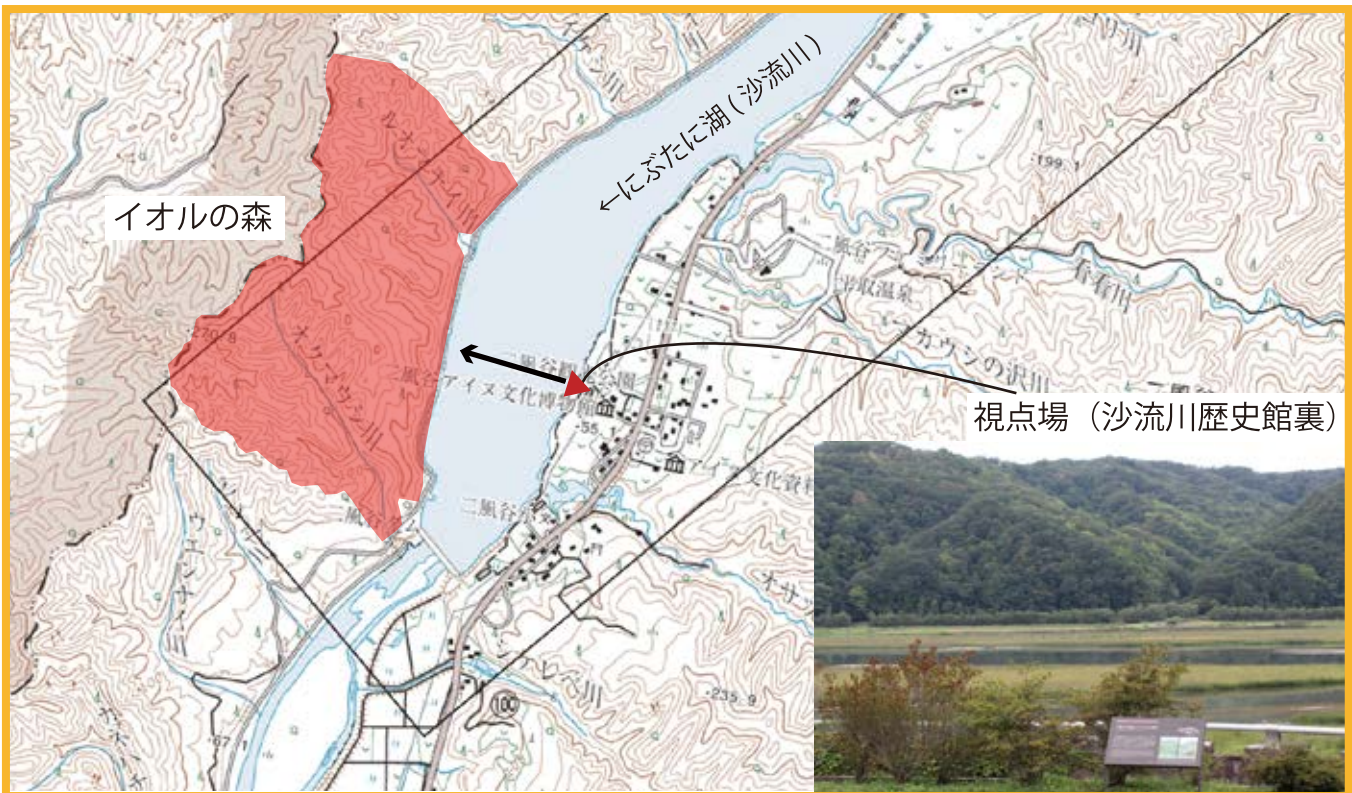


重要文化的景観 –重要な構成要素の紹介 4–

イオルの森（二風谷区域：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観）

二風谷区域の沙流川右岸側に広がる町有林は、現在「イオルの森」としてアイヌ文化伝承のために活用されています。この森を含む一帯はかつて針葉樹（マツ）と広葉樹（ナラなど）が混ざる森林でしたが、近代の林業によって広葉樹林へと移り変わっています。現在、約 210ヘクタールに及ぶイオルの森において計画的な伐採と植樹を行い、樹木の種類が多い森林にするための山づくりが進められています。例えば谷川沿いの森林に育成するアツニ（オヒョウニレ）は数が少なくなった樹木とされていますが、植え込みや下草刈りを行なうことで増やしていくことができます。山林における植生の多様性を保持し、資源がなくならないように気を配ることは、伝統工芸の材料や様々な山菜を得ることにもつながっていきます。（長田佳宏）



イオルの森は、二風谷コタンの対岸に所在する。沙流川歴史館の裏手には、対岸の森林景観を見学するための解説サインが設置されている（図右下の写真）。



春の山菜採り体験（毎年5月に実施）。一般を対象にした山歩きを行うことで、アイヌ文化継承への理解が深まっていく。



アツニ（オヒョウニレ）の植樹体験（毎年10月に実施）。アイヌ工芸を守り伝える活動にとって重要な取り組みである。